

「煙火の製造と保安」正誤表（初刷から2刷への修正点）

ページ	項等	訂正前	訂正後
1	表 1.1	ナイヤガラ、富士滝等	ナイヤガラ、富士等
3	[信号雷]	発音体	発音体(雷粒)
3 ほか	[彩煙雷]等	煙火玉が破裂	煙火玉が開発
4	1.3.1 枠仕掛	細長い筒状の中に	細長い筒状の紙パイプに
	1.3.2 綱仕掛	富士滝	富士
5 ほか	(2) 乱玉、トラ、花束等	発射薬	打揚火薬
	(3) 車花火等	流星	龍勢(流星)
6	[硝酸カリウム (KNO ₃)]	硝石	硝酸カリウム
8	1 行目	この激しい反応性	この高い反応性
8	[過塩素酸アンモニウム (NH ₄ ClO ₄)]	強い打撃を加えると	強い <u>衝撃</u> を加えると
9	(3) 三硫化アンチモン (Sb ₂ S ₃)	単位質量で比較すると	単位質量当たりで比較すると
10	(4) セラック	グラム当たり高発熱量	単位質量当たり高発熱量
10	(9) 鶏冠石 (As ₄ S ₄)	低融点、低沸点の特徴を持つ可燃剤である。	ヒ素の硫化砒物であり、低融点、低沸点の特徴を持つ可燃剤として用いられる。
11	(1) アルミニウム粉 (火花剤、発熱剤、発音剤、発光剤)	燃焼熱は 7.4ca ℓ (30.9 J) / g	燃焼熱は 30.9 J (7.4ca ℓ) / g
12	(2) マグネシウム粉 (発熱剤、発光剤)	マグネシウムは水と容易に反応して	マグネシウムは水と反応して
12	(3) マグナリウム粉 (火花剤、発熱剤、発光剤)	マグナリウムはマグネシウムとアルミニウムの合金化合物 (単なる合金ではなく、一部はマグネシウムとアルミニウムの化合物になっている) である。	マグナリウムはマグネシウムとアルミニウムの合金である。
12	2.4 色火剤	帯スペクトルを伴う光を	帯スペクトルに基づく光を
14	[花緑青(はなろくしょう)]	毒性があるので、	ヒ素を含んでいて毒性があるので、
14	(4) 緑煙	(4) 緑煙 青煙と黄煙の混合	(4) 緑煙 <u>オプラスグリーン</u> 、青煙と黄煙の混合
15	(7) 黒煙	ナフタリンが保存中に昇華して黒煙組成物の組成 (酸化剤との比率) が変化する	黒煙組成物中のナフタリンが保存中に昇華して組成 (酸化剤との比率) が変化する
15	(1) フタル酸塩	酸化剤 / フタル酸塩の組成物は、	酸化剤 / <u>フタル酸のカリウム塩</u> の組成物は、
15	(6) ゼラチン	水を吸収して膨張する。	水を吸収して膨潤する。
16	2.9 綿実、もみ殻、しいな、コルク粒	表面に煙火組成物を塗抹する	表面に煙火組成物を <u>塗布</u> する
17	(2) 笛音薬 (例)	過塩素酸カリウム/テレフタル酸水素カリウム = 71/29	過塩素酸カリウム/テレフタル酸 <u>モノ</u> カリウム = 71/29
23	4 行目	その使用後の廃液等は一切排水できず、専門の処理業者に処理を委託する。	クロムを含む廃液等は排水基準が厳しいので、専門の処理業者に処理を委託する必要がある。
25	4.2.4 保持成型	「(1) 薬燃(よ)り」の前に追記	「保持成型」工程は、「成型工程」および「填薬工程」をまとめた一連の工程をいう。
26	(5) 薬打ち	8%程度水で湿らせた薬を少量ずつ紙パイプ等に打ち込む作業	8%程度の水で湿らせた煙火組成物を少量ずつ紙パイプ等に打ち込む作業
27	[割り薬掛け]	表面積を大きくして威力を増大させ	表面積を大きくして威力を増大させた

		る作業である。	割り薬を製造する作業である。
27	(9) 造粒	1.5mm 程度の篩を通す。	1.5mm 程度の篩を通して粒状にする。
27	(11) 薬塗り	成型煙火組成物等の燃焼面に泥薬を塗る作業であり、	成型された煙火組成物等の <u>表面</u> に泥薬を塗る作業であり、
27 ほか	(11) 薬塗り	発射や煙火玉の爆発等の衝撃で、	打揚げや煙火玉の開発等の衝撃で、
31	(3) 過早発および低空開発	過早発とは、煙火玉が発射されたのちすぐに開発することをいい、… 2) 親導が損傷し、…火が入って低空で開発する場合(過早発)	過早発とは、煙火玉が <u>筒を出た直後</u> に開発することをいい、… 2) 親導が損傷し、…火が入って <u>筒を出た直後</u> に開発する場合(過早発)
33	表 2.1 製造設備の概念	火薬類一時置場等、日乾場、廃薬焼却場等	<u>火薬類一時置場</u> 、日乾場、廃薬焼却場等
36 ほか	1.2.4 火気の制限、発火物の携帯	製造保安責任者	火薬類製造保安責任者
39	(1) 窓と扉	非常の際の避難に便利のように	非常の際に避難しやすいように
46	1.18.1 試製工室の概念	試験製造	製造試験
46	1.18.2 試製の際の留意事項	試験製造	製造試験
48	1 行目	火薬類一時置場に相当期間保管することは	火薬類一時置場に保管することは
53	(2) 導火および速火線の切断ならびに薬紙の裁断作業(共通)	5) 切断および裁断工具は反復使用しても摩擦熱が生じないように、必要に応じ塗油、研磨または交換し、作業困難な場合は強行してはならない。	5) 切断および裁断工具は、摩擦熱が小さくなるよう必要に応じ塗油、研磨または交換する。
53	(2) 穿孔作業	2) 錐は反復使用しても摩擦熱が起らないよう、必要に応じ塗油、研磨または交換し、作業困難な場合は強行してはならない。	2) 錐は、反復使用しても発生する摩擦熱が小さくなるよう必要に応じて塗油、研磨または交換する。
54	(5) ランス、滝、分砲、乱玉填薬作業	2) 分砲や乱玉等の星は、打揚筒の内径より	2) 分砲や乱玉等の星は、 <u>紙パイプ</u> の内径より
57	(5) 仕上作業	製造年月日および工場名を表示する。	製造年月日および <u>製造所名(工場名)</u> を表示する。
60	5 行目	集積による蓄熱を避けるためいったん放冷所に移す。	集積による蓄熱を避けるためいったん放冷設備に移す。
63	(3) 収函(外装容器)表示	3) 内装容器を使用する場合には、外装容器と同様の表示をする。	3) 内装容器を使用する場合には、 <u>衝撃注意、火気厳禁を除き</u> 外装容器と同様の表示をする。
65	3 行目	安全な場所で解体し、火薬または爆薬に区分する。	安全な場所で解体する。
70	2.1.2 熱分析試験	反応の過程を測定する試験で、	反応の過程を調べる試験で、
79	4.1.3 耐水性試験	の耐水試験としては、	の耐水性試験としては、
82	下から 2 行目	打揚げ時に筒ばねなどを引き起こす	打揚げ時に筒ばねや <u>過早発</u> を引き起こす
84	6.1 一般的性能	7) 煙火組成物に…金属可燃剤を用いると、硫黄や木炭等の可燃剤を用いた場合に比べて、…は大きくなる。	7) 煙火組成物に… <u>金属の可燃剤</u> を用いた <u>煙火組成物</u> は、硫黄や木炭等の可燃剤を用いた <u>煙火組成物</u> に比べて、…は <u>大きい</u> 。
85	表 3.6	笛音薬 KP/テレフタル酸水素カリウム = 71/29	笛音薬 KP/テレフタル酸 <u>モノ</u> カリウム = 71/29
87	索引	テレフタル酸水素カリウム	テレフタル酸 <u>モノ</u> カリウム